葵歴史のまちづくりグランドデザイン概要（１）

≪グランドデザインの目的≫

静岡都心に新たな価値を加える歴史資源を活かした「歴史文化の拠点づくり」と、静岡都心をけん引してきた商業・業務エリアの今後のあり方を検討する「都心再生に向けたまちづくり」は、空間的に重なり合い、機能的にも相互に関連しているため、一つの方向性のもとで一体的にまちづくりを進めることが重要となります。

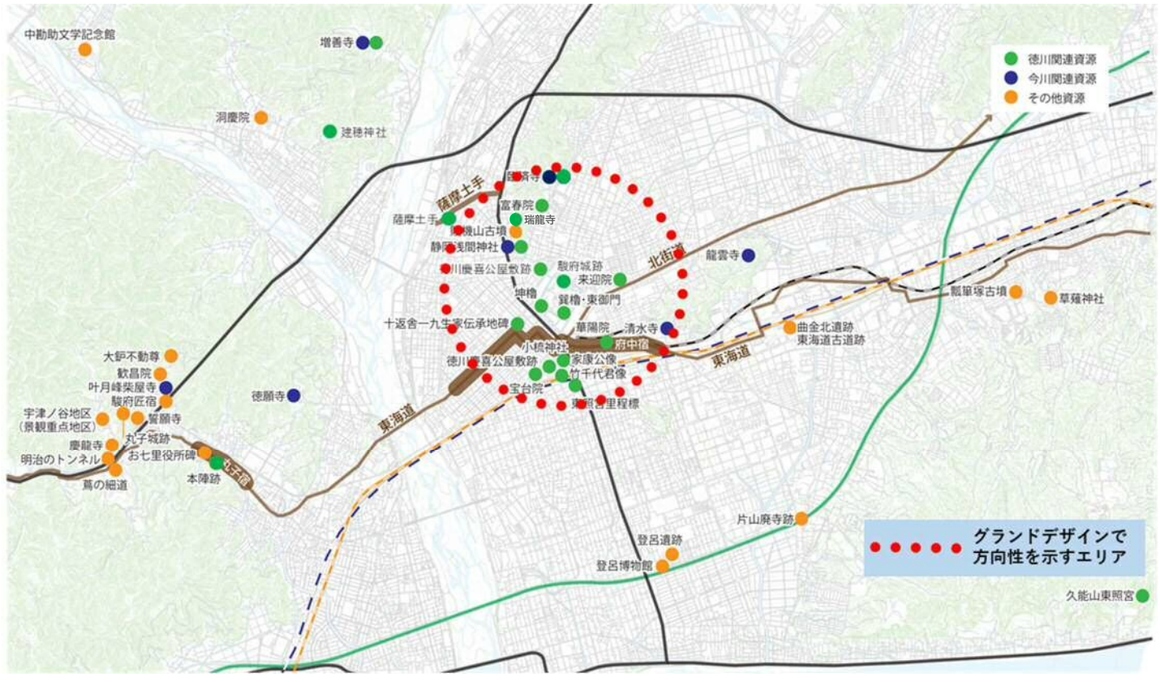
そこで、「歴史文化」「都心再生」の２つのテーマに重点を置き、およそ２０年後の将来像を示す**『葵歴史のまちづくりグランドデザイン』**を策定しました。

≪静岡都心の現状と役割≫

静岡都心には、商業、業務機能が集積するとともに、徳川氏・今川氏ゆかりの地として歴史資源が数多く残されています。また、大道芸などの芸術活動や、静岡おでんをはじめとする食など、静岡市特有の文化が豊富で、市民にとっては、ちょっとオシャレをして出かける憧れの場所として栄えてきました。

このため、これまで培ってきた都市機能の更新と、新たな時代に対応した都市機能へも転換しつつ、歴史資源の活用と経済の活性化を目指したまちづくりが求められます。さらに、先端技術を活用し、暮らしやすい、働きやすい、居心地がいいまちを形成し、シビックプライド（郷土愛）の醸成を図ることが重要となります。

≪グランドデザインの対象エリア≫

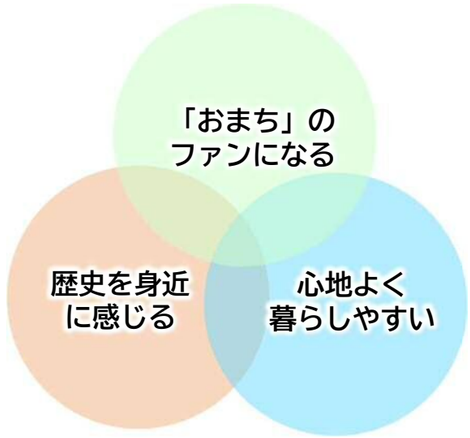


【備考】
「葵歴史のまちづくりグランドデザイン」は静岡都心を対象にしています。
なお、清水都心では、令和元年７月に「清水みなとまちづくりグランドデザイン」を策定、
草薙・東静岡副都心では、令和３年３月に「駿河まなびのまちづくりグランドデザイン」を策定しています。

≪グランドデザインの目指す姿≫

歴史とともに暮らす誇りを感じ、ワクワクする「おまち」

≪目指す姿を実現するための３つの方針≫



「おまち」とは・・・
もともと静岡都心の一部のエリアを指し、市民にとっては憧れの場所というような言葉でありました。
このグランドデザインでは、これまで培ってきた市民にも定着している「おまち」という言葉を大切にしたいと考え、みんなでつくるまちにしたいというメッセージも込めて、あえて「**おまち**」という言葉を、愛称や概念として採用します。

ファンとは・・・
このグランドデザインでは、次のようにまちに関わってくれるすべての人を「**ファン**」と位置付けます。
・おまちを好きな人　・おまちを訪れる人
・おまちでビジネスに関わる人　・おまちでまちづくりに参加する人 など

静岡都心には駿府城公園や静岡浅間神社をはじめとする数多くの歴史資源が存在しています。これらの歴史資源は、過去を現在に伝える貴重な価値を有しているものの、市民生活の中で触れる機会が多いとは言えない状況です。このような歴史資源に親しんでもらうため**『歴史を身近に感じる』**を方針として掲げます。

まちをつくるためには、関わってもらう人々を増やすことが重要です。食やホビー、芸術などの数多くの文化資源を活かし、おもてなし環境を整えることで、市民や来訪者にこのまちを好きになってもらうことが不可欠です。多くの人を巻き込み、一人ひとりが自分事としてまちを育ててもらえるように**『「おまち」のファンになる』**を方針として掲げます。

静岡都心は官公庁、教育、文化、医療などの都市機能に加え、商店街やオフィスなどの商業・業務機能が集積しています。しかし、時代の変化に伴い、まちの役割も柔軟に対応することが求められ、通院や買い物などの目的だけでなく、用事がなくても訪れたくなるようなまちである必要があります。人々の生活や活動を支える暮らしの充実を図ることが、市民の満足感を高めると同時に来訪者を惹きつけることにつながると考え**『心地よく暮らしやすい』**を方針として掲げます。

≪３つの方針のイメージ≫

- 歴史資源を、守る、伝える、体験する、など最大限に活用し、歴史を身近に感じられる環境があふれている
- 歴史のフィールドミュージアムとして、歴史資源が保存され、コンパクトなまちなかに都市機能と歴史資源が調和している

『歴史を身近に感じる』

『「おまち」のファンになる』

- 静岡特有の温暖な気候や穏やかな風土を活かし、時代に合わせて都市をマネジメントし、様々なライフスタイルを実現できる環境が整っている
- 空き店舗や低未利用地などの有効活用、また老朽化した建築物の更新により、中心市街地として都市機能を維持し、暮らしやすいまちが形成されている

『心地よく暮らしやすい』

- 都心としての求心力を保ちつつ、魅力ある文化、コンテンツが充実し、五感で楽しめる環境が整っている
- 本市に根付いた大道芸や演劇、音楽などの芸術文化の持つ創造性を活かした「まちは劇場」の取組の推進により、市民や来訪者でまちなかが賑わっている

葵歴史のまちづくりグランドデザイン概要（２）

≪取組の視点≫

目指す姿を実現するための３つの方針について、具体的にどのような考え方で実現していくのか、各方針に３つずつ視点を設定し、取組を具体化していきます。

方針１　歴史を身近に感じる

視点１　歴史資源の再認識

歴史資源の保全を図り、歴史を身近に学べる機会を創出する

『静岡市歴史博物館整備イメージ』

視点２　歴史資源の活用・体験

歴史資源を活用した交流を推進し、歴史を楽しむ機会を創出する

『葵舟』

写真撮影：望月敏秀さん（市民カメラマン）

視点３　歴史の空間づくり

市民や来訪者が日常的に歴史に触れられる機会を創出する

『駿府ホリノテラス』

Leading Project

- 静岡市歴史博物館の活用
- 静岡浅間神社の大改修
- 天守台跡野外展示
- 静岡市景観計画（駿府城公園周辺地区）の推進
- 歴史資源の活用（東御門・巽櫓、坤櫓、紅葉山庭園）
- お堀の水辺環境の活用
- 二の丸休憩舎の整備
- 駿府城公園周辺のライトアップ
- 小中学生が興味をもつ歴史教育の強化
- 歴史を身近に感じるイベントの実施

方針２　「おまち」のファンになる

視点４　文化資源の磨き上げ

「おまち」ファンづくりに向けて、まちの魅力を楽しめる機会を創出する

『大道芸ワールドカップin静岡』

写真撮影：田中浩さん（市民カメラマン）

視点５　憩いの空間づくり

来訪者を惹きつけ、やすらぎが感じられるおもてなし空間づくりを進める

『青葉シンボルロードイルミネーション』

出典：I Loveしずおか協議会

視点６　観光・移住の促進

「おまち」ファンを中心として、人が人を呼ぶ仕掛けづくりを進める

『観光ボランティアガイド「駿府ウエイブ」』

出典：駿府ウエイブHP

Leading Project

- 静岡市民文化会館の再整備
- 駿府城公園再整備（修景）
- 文化資源のマネタイズ戦略強化
- 大道芸や音楽などに日常的に触れる機会の創出
- 青葉シンボルロードの再整備や積極的な利活用
- 西草深公園のリニューアル
- 観光、移住のPR強化
- SNSなどの多様な情報ツールによる魅力発信
- しずチカ空間再構築
- プラモデルプライドプロジェクト

方針３　心地よく暮らしやすい

視点７　まちの更新

都市アセットの活用により持続可能なまちの形成に向けた都市機能の更新を進める

『時代に合わせた再開発』

視点８　まちをつかう

公民共創によりまちなかのオープンスペースを日常的に活用する

『ハニカムスクエア』

視点９　先端技術の活用と浸透

多様なライフスタイルの実現に向け、時代に沿った先端技術を活用する

『パーソナルモビリティ』

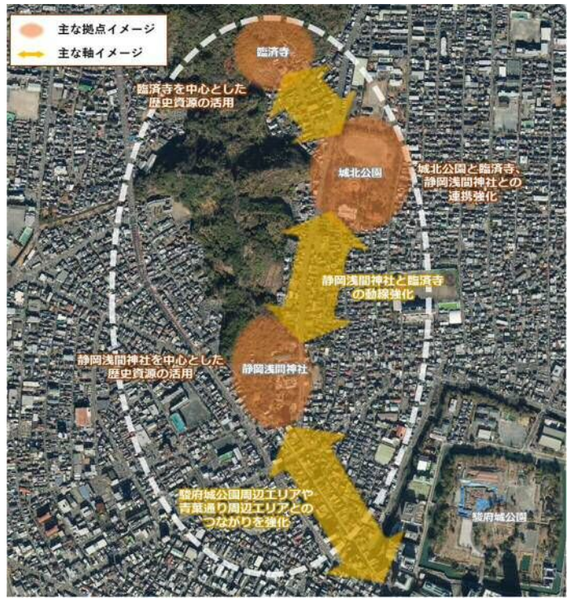
Leading Project

- 防火建築帯、防災建築街区などの建築物の更新
- 商業エリアの再開発
- 城北公園のPark-PFIによる再整備
- JR静岡駅の交通結節点機能の強化
- 御幸通りの景観計画の推進
- 交差点平面横断化
- 呉服町通りのモール化
- 北街道線の再整備
- MaaSなどによる交通アクセスの強化
- まちなかで活動するプレイヤーの発掘・育成

≪エリア別の方向性≫

①　浅間神社・臨済寺周辺エリア

- 静岡浅間神社、臨済寺などの歴史資源を最大限に活かす
- 他エリアとのつながりを強化する（交通、イベント等）
- 城北公園などの公共空間を有効活用する



②　駿府城公園周辺エリア

- 残された歴史の特色を活かし、エリアに入ると異空間に入り込んだ雰囲気を感じられるようにする
- 歴史資源をより身近に感じられるような取組を強化する

③　青葉通り周辺エリア

- 老朽化した建築物を更新し、都市機能を維持する
- これからも商業が主役となるような取組を展開する
- 駿府城公園周辺エリアとのつながりを強化する

④　ＪＲ静岡駅周辺エリア

- 交通結節点機能を強化し、玄関口としての風格をつくる
- 他エリアへスムーズにアクセスできるようにする
- 時代のニーズに応じた、再開発などの更新を進める